

10



日本
国語
大辞典

しな—しよぎ



日本國語大辭典

第十卷

編集 日本大辭典刊行會

發行 小學館

日本国語大辞典 第十卷

昭和四十九年七月一日 第一版第一刷発行 ©
昭和五十五年七月一日 第二版第六刷発行

編集 日本大辞典刊行会

発行者 相 賀 徹 夫

印刷者 小 林 清

発行所 株式会社 小 学 館

東京都千代田区一ツ橋二一三
〔郵便番号〕一〇一〔振替〕東京八二〇〇

造本には注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの不良品の場合は、おとりかえいたします。

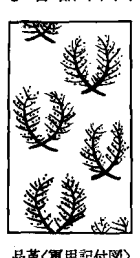
心はなとか、賢きより賢きにも移さば移らざらん
*書言字考節用集「五」姿貌シナカタチ又云行状
*洒落本「辰巳之園」自序「軒茶屋其外、楊枝見せ霞
笛(よしず)茶屋とうの、美婢は紅粉を粧ひ、品形の美
きを、見れば柔は外にあらじとおほゆる」。和英語林
集成初版「Shinkakashiシナカタチ 品形」 開園
シナカタチ 開園

しながわつひのよみこと「級長津彦命」「級長津彦命
しながわつひのよみこと」の誤読によって生じた語。
*書記上兼方本訓「乃ち吹撥(ふきはら)ふ氣(い
いき)神と化爲(なる)号(な)を級長戸辺命(しな
かへのみこと)と曰(まう)す。亦是級長津彦命(し
なかつひのみこと)と曰(まう)す。是れ風神(かせ
のかみなり) 開園シナガツヒノミコト 開園

しながとりの「鳥(かいつぶり) 開園」の古
意。一説に水鳥の総稱(鴨(みさぎ)の古名、尾長鳥の
意から尾羽の長い鳥などともいう。②「いのしし
(猪)の異名。能因歌枕「しながどりの鳥」とい
ふことは、むかしろししをとりける如にてよ
みつたへたるべし」。日葡辞書「Xinagadori(シナガ
ドリ)。歌語。すなわち、イノシシ。雑非。もみぢ笠
「やわやわと歌に牙なき猪(しながどり)」 開園
地名「しながとりにかかる。かいつぶりの類が、雌
雄並んでいることが多いので、居並ぶの意からか。
*万葉一七・一四〇「志長鳥(しながと)り猪名野を来
れば有馬山夕霧立ちぬ宿(やど)り」はなくて「作者未
詳」。*万葉一・二七〇八「四長鳥(しながと)り猪
名山(しな)とりに行く水の名のよそりし隠(こも)り
妻はも(作者未詳)」。*拾遺神楽「五八六」しなかと
りひなのふし原飛び渡る鳴の羽根音おもしろきかな
よみ人(しらす)。*新撰撰「冬・四八三」風寒み夜ふ
けぬらむしなかとり猪名のみなにか千鳥鳴く。か
か藤原顯仲」。②地名「安房(あは)に千鳥鳴く。か
り方未詳。かいつぶりなどが水にもぐって水面に出
て来た時の鳴声からか。*万葉九・一七三三「水長鳥
(しながと)り」安房(あは)に継ぎたる梓弓(あづさ
ゆみ)末(す)の珠名(たまな)は虫麻呂歌集」
開園シナガトリ 開園

しながとりの「実体が不明になってしまった時期に、こ
れを誤り伝えてきた枕詞か。*神楽歌大前張し
なが鳥(木)之奈加止留シナガドル」や猪名(の
な)のみなどに、あいつ入る船の楫(かぢ)よくまか
せ船傾く(船傾く)な」
しな(か)ばん「支那(支那)の支那(支那)で作られ
たところからいう。外側を革または紙で貼った木製
の文庫型のかばんで、錠がかけられるようになって
いるもの。*情歌大一座野暮編「重ね籠篋の苦勞
を重ね主故勤めを支那(支那)かばん」。*風流恋風「小杉天
外後写真(姉)の着更入(き)がへいむなる支那(支那)靴を
見せ、ね、何にも無いでせう?」。*明暗夏目漱石
二七「戸棚の中にある支那(支那)靴(シナカバ)の蓋を開
けて」。 開園シナガバ 開園

しながわ「がは(品草)名(名)「しだかわ(羊歯草)の
変化した語という。藍色の地に羊歯の葉の形を白く
染め出した草。*武
家名目抄「甲冑部 齒
染草 藍草、眞丈白、品
草、此草革などとも
書也。是皆假字也。本字は齒染草也。藍草に齒染と
いふ草の葉を二つ両方よりたはめて形を丸くしたる
文を白く染出したる草也」
しながわしな(品川)「東京都品川区の地名。東京
湾に面する地域で、江戸時代は東海道五十三次の第
一の宿駅が置かれた。その宿場町は歩行新館に置か
れた。薩摩藩士、僧の出入りが高名(高名)遊里として
にぎわった。明治二年(一八六九)品川界となり、同
四年東京府荏原郡品川町となって郡役所が置かれ
た。昭和七年(一九三二)東京市の市域拡張に伴い、
隣接の大崎町大井町を含め品川区となる。*浮世草
子・西鶴諸国はなし「三、かくれもなき、卒人、広
き江戸にさへ住かね、此四五品川、品川の藤茶屋の、あ
たりに棚かきへ住かね、洒落本、古契三唄「吉原は中座と
いって、まん中に居るがよい女郎しゅだぞうだが、品
川じゃ両方のはしにすはるがよい女郎」。③東京
都二三区の一つ。昭和七年(一九三二)設置された品



品草(軍用記付図)

川区に、同二二年荏原(えはら)区を合併して現在の
区域が成立。西部の台地は住宅地、東部と目黒川の
沿岸は工場が多く、京浜工業地帯の一部を形成する。
開園この地では川が海岸に近く、すぐに海に入ると
ころから古く下無川と書いたものにはじまる「南向
茶話」。 開園シナガワ 開園

しながわおどし「しながはをどし(品草)名(名) 品草を裁
って、その緒で縫(よ)う(い)の札(さ)を感ずること
また、その緒した縫。*平家四、橋合戦、源三位入道
は、長綱のよろひ直垂にしながはをどしの縫也」。*尺
素往来「卯花威、鳩(か)しとり)威。緋威。品草威。黄
句」。開園(1)シナはシダ(齒染)の転か。齒染の文様が
ある革でおどしたものであるから古今要覧考、類聚
名物考を言海。(2)シナはシナ(品階)の義で、一段
ごの色を分けておどしたのか、あるいは、古昔行
なわれた革の名か(類聚名物考)。
しながわだな「しながはは(品川)名(名) 茶道具の棚物
竹(たな)の一つ。小堀遠州好みで、用材は楠桐。白
竹の四本柱で、地板の下に透かしがある。徳川家光
が品川の御浜御殿に赴いたとき、俄かなこと、遠州
がこの棚を作って茶会を催したので、この名がある。
開園シナガワダナ 開園

しながわたり「しながは(品川)名(名) 江戸時代、品川にお
かれた溜。非人頭松右衛門が預かっていたので、非
人溜とも呼ばれた。貞享四年(一六八七)に松右衛門
が町奉行から囚人を預かったのに始まる。囚人が病
気になったとき、一時加療のために預かること、一五
歳未満の者が遠島刑に処せられたときに一五歳まで
預かることが主な機能であった。*禁令考「後集、第
一巻」品川溜起立之事「貞享四年卯九月廿六日、
加役井戸新右衛門掛囚人、始而相預」
しながわしんじゅう「しながは(品川)名(名) 落語。
遊女に心中をもちかけられた男の色気どりと、遠
浅(と)おあさで助かるおかしみを中心とした郭咄
(くるわばなし)。地口(じぐち)おちで結ぶ。 開園
シナガワシんじゅう 開園

しながわだ「しながは(品川)名(名) 江戸末期、江戸
品川沖に置かれた江戸幕府の砲台。ペリー来航を機
に江川太郎左衛門の献策により、一か所に設置を予
定し、うち六か所を完成した。御台場。 開園シナガ
ワダイバ 開園

しながわてんのうまつり「しながは(品川)名(名) 品川天王
祭」名(名)「しながわまつり(品川祭)に同じ。*季
夏。俳諧「改正月令博物客」六月「品川天王祭、兩社
の御輿中の橋のうへにて行合南北へ分る故に行合の
橋と云」。 開園シナガワテンノウまつり 開園
しながわのり「しながは(品川)名(名)「あさくさの
り(浅草海苔)の異名。*季。春。俳諧「板川春二
」斎にあふ品川のりや東海寺(鷹野)。*本朝食録三
「浅草のり」。*略。甘苔若豆海浜多有。此亦一物
稍似品川苔(紫赤色)。大和本草八「紫菜(あまの
り)」。*略。武州の浅草のり、品川苔」。 開園シナガワ
ノリ 開園

しながわはぎ「しながは(品川)名(名) マメ科の二年
草。中国北部原産の帰化植物で本州、四国、九州の
主に海岸に生える。茎は高さ六〇〜九〇センチ。
乾くと芳香を出す。葉は有柄で互生し三個の小葉か
らなる。各小葉は長さ約二センチの倒披針形、ま
たは長楕円形で基部は楔形くさびがた、先は鈍頭
となり縁に細かい鋸歯(き)がある。夏、葉腋(よ
うえき)や枝の先端に小さい黄色の蝶形花を穂状に
密生した花穂をつける。果実は長さ三ミリ、くらくら
い卵状楕円形で黒熟する。家畜の飼料にされる。漢
名、辟汗草。えびらはぎ。*日本植物名彙編「松村任三
」シナガハギ、エビラハギ。 開園シナガワハギ
開園

しながわびょうし「しながは(品川)名(品川)拍子」名(名) 里
神楽の囃子(はやし)の一つ。武蔵国品川(東京都品
川区)の天王社からはじまったもの。鎌倉拍子の類。
*隨筆「尾龍工随筆」鎌倉拍子品川拍子とて二流ある
といふその品川拍子といふは」。 開園シナガワビョ
ウシ 開園

しながわまき「しながは(品川)名(品川)海苔(のり)を
巻いた煎餅。また、餅を焼いて海苔で巻いたものに
もいう。江戸の品川で海苔が沢山採れたことからこ
の名がある。
しながわまつり「しながは(品川)名(品川)祭」六月七日に
行なり、東京都品川区品川二丁目の荏原(えはら)
神社と、北品川三丁目の品川神社の二つの天王祭を
いう。品川天王祭。*季。夏。 開園シナガワまつり
開園

しながわり「がは(品草)名(名) 日常の食べ物でない
御馳走。祝日、祭日などの特別な日の食事。 開園シ
ナガワリ 開園
しなき(名)「魚群が水中に深くもぐり、海面に泡を吹
き上げること。山口県、大分県でいう。じやなぎ。
(分類漁村語彙)
しなき(名)「地鳴(名) 繁殖期の鴨(さえず)りのはつ
きりしている小鳥が一年中出す鳴き声という。ふつ
うは機械的な単音で、たとえば、ウグイスのチャッチ
ャッという符鳴き、ホオジロのチッチ、メジロのチー



品玉(信西古楽園)

京集「丸シナダマ」・易林本節用集「弄玉シナダマ」
・飯名草子・浮世物語二・三「しな玉(タマ)を取り、
手鞠を突く、皆
これ儼然なり」
・評判記色道大
鏡「たどへば
上手のしなだま
などをとれる」
とく自由円満なる体なり」・文明論の概略「福沢諭
吉三・六「響へば琵琶、鬪牌、弄珠(シナダマ)等の
技芸も人の工夫なり」②巧みに人目をごまかすこ
と。洒落本「青楼屋之世界錦之裏」かの戸棚へかく
しおやし色男を出しとうとうしな玉をつかひをほせ
てびやうの中へ入る」(閉園)おてでなま。長野県下
水内郡51(しな)茨城県稲敷郡24(閉園)シヌヒタ
マ(忍玉)の義(言元機)。(閉園)余(余)。(閉園)
文明「伊予鏡頭本・易林」

しなだまも種(たね)から(手品をするにも種が
なければ、どんなにようずな人でもできないの意)
何事も材料がなければできないことのとえ。
・俳諧「毛吹草」二「品玉とるにも種がなければなら
ず」・警諭「七」弄品シナダも種(タネ)が無
(ナ)ふては取(ト)られぬ」
しなだまおとこ(とこ)「品玉男」名「品玉の曲芸を
演ずる男。歌舞伎・金幣猿島都二番目「お前の御心
が、有るやう無いやら、品玉男(シナダマ)トコ」の、
このよしの子、立派にゆすつてめかしてお出で
も」(閉園)余(余)

しなだまし「品玉師」名「品玉の曲芸を演ずる者。手
品師。曲芸師。品玉使い。品玉取り。・雑俳「天神花
」取まいて、人のでかきしたしなだま」(閉園)余(余)
しなだまづかい「つかひ」品玉使「名」しなだま
(品玉師)に同じ。・東京新繁昌記「服部誠一」三「方
世橋「弄珠師(シナタマツカヒ)、街頭演史(つちごう
しなだま)とり」品玉取「名」しなだまし(品玉師)
に同じ。・雑俳「軽口頓作」そらを見る・品玉とりのそ
こがしな」(閉園)余(余)

しなだま(しなだま)「しなだま」に「かかろ。語義
および、かかろ方未詳。・古事記「中・歌謡・鳩鳥みほ
どりの」潜(か)「き息」志那陀由布(シナダマ
フ)・染浪道(ささなみぢ)をすくすくと、我がいませ
ばや」(閉園)諸説ある。(1)しなは坂、「たゆま」は
行きなすむ意で、坂道で早く行き進めないの意とす
る説。(2)しなは、段々になつていゝ田で、段々に
なつていゝ田が連続するの意とする説など。
しなたり「閨」名「しなたりくぼ(閨)」の略。
・色葉字類抄「閨シナタリ」②男女の生殖器から
出る液。精液。体液。淫水。(閉園)色葉
しなたり(簾垂)名「しのだれ簾垂」に同じ。

しなだれくぼ「閨」名「女性の性器。女陰。陰門。
しなたり。・靈異記「下」一八「爰に経師「略」の背に
隔(うす)まりをり、裳を挙げて婿(く)なな)ふ。閉
(ま)の閨(シナタリ)ボに入るに随ひて、手を携
へて俱に死ぬ。八真福寺本訓積「シナタリクボ」
しなだれ「撓垂」名「しなだれること。垂れ下がる
名。また、そのもの。②鏡(よろい)の部分の
名。胴の下に垂らして大脚部を保護するもの。草摺
(くさずり)」。③「しのだれ簾垂」に同じ。日葡
辞書「Ximaneシナタリ」(訳)「日本のかぶとの下の
方の部分で一種の網に似ていて耳や首の上まできて
いる部分」(閉園)余(余)

しなだれおとこ(とこ)「撓垂男」名「すく人にしな
だれる男。人に甘えたがる男。・浄瑠璃・淀船出世滝
徳「下」中にもたつたの藤と云しなだれ男、まどひ付」
(閉園)余(余)

しなだれかかろ「撓垂掛」名「自ら五(四)力なげにも
たれかかる。また、からだをくねらせて寄りそう。
・俳諧「毛吹草」五「軒のつまにしなだれかかる柳哉
へ正」・浮世草子「傾城禁短氣」三「四野羅都のら
せらるる、小ざつと云白人に品シナ、だれかかれは」
・滑稽本「東海道中膝栗毛」初「略」コウ女中、のちに
たのみます」としなだれかかる。女はあきれてそ
うににげだして行」(閉園)余(余)

しなだれこえ「こえ」撓垂声「名」人にしなだれた時
に出すような声。鼻にかかった、甘えた声。・俳諧・
猿轡「猫の皮のしなだれこえ、ばち当りの句也」(閉園)
シナダレゴエ 余(余)

しなだれぶり「撓垂振」名「しなだれた様子。・俳
諧「嵐山集」一「冬」めたるきにしなだれぶりやしく
れんは(良和)」(閉園)余(余)

しなだれよる「撓垂寄」名「自ら五(四)甘えて、わざ
ともたれかかる。・浄瑠璃「寿の門松」上「相場の高い
そつかの買そめり略」サアサアサアかふたとしな
だれよれば、あづまむつと頬がまぢびつしやりとみ
しらせ」・真景累ヶ淵「三遊亭円朝」六「酔った粉れに
冗談を仰しやると、此方(こちら)はなかなかそれ者
(し)の果と見えてとうとう殿様にしなだれ寄りま
してお手が付く」(閉園)余(余)

しなだれる「撓垂」名「自ら下」に「しなだる」(自ら下
二)①重みのために垂れ下がる。力なくなびき傾
く。・俳諧「鷹筑波」五「しなだるる柳はほそき目もと
哉」道徳」・和英語林集成(初版)「Shinadare、し
シナダレル」②人に甘えたり寄りたりして、寄り
添う。なまめかしく寄りかかる。甘えてもたれかか
る。・浮世草子「好色一代男」一六「御門の不自由成
にては門番にとり入、横目にしなだれ、さし合有時は
るんざんに仕懸」・浄瑠璃「大経師昔曆」上「じやれて

そはへて手まりとれとれまひとつたつ。略ころ
り火燵にしまだれて、なつてもがの恋ならん。・疑
惑「松林」江「養えたやうな手付きで私の膝にしな
だれるやうにして」(閉園)①草木などがしおれる。青
森県三戸郡五戸18(しなだるる)熊本県南関97②青
や子どもが人にすがり寄る。山口県豊浦郡豊東99
閨園(1)シニヒタルの義(名)言通。(2)シナダレは、
高い所から物がすべり落ちることをいうナダレに助
命(助)したる(類聚名物考)。(閉園)余(余)

しなちく「支那竹」名「広東、台湾に産するタケノコ
をゆで乾燥または塩漬けにしたもの。中華料理の
材料として用いる。(閉園)余(余)

しなチベット「支那」名「支那」語族(名)チベットは
「tibet」東アジア、南アジアで話される、シナ語、チ
ベット語、ビルマ系諸言語(チベット語、ビルマ語、カチ
ン語など)、タイ系諸言語(タイ語、ラオ語など)の総
称。(閉園)シナチベット「支那」語族(名)チベットは
「tibet」東アジア、南アジアで話される、シナ語、チ
ベット語、ビルマ系諸言語(チベット語、ビルマ語、カチ
ン語など)、タイ系諸言語(タイ語、ラオ語など)の総
称。(閉園)余(余)

しなちりめん「支那縮緬」名「中国で生産される絹
織物。浙江省湖州を主産地とし、わが国の縮緬と同
じく、経(たて)いと、緯(よこ)いとに生糸を用いて多
くは平織にして、製織のあとで仕上げたもの。・社会百
面相「内田魯庵「温泉場日記」網セルに白茶の支那縮
緬の兵児帯へこ糸を締めた若紳士」・あむばる
ばりあ「西脇順三郎「恋歌」彼女等は支那縮緬の薔薇
の樹であった」(閉園)余(余)

しなかわのき「科皮木」名「閉園」植物、しなのき
(科木)。千葉県清澄山(しなかわむき)紀伊
じなつき「名」人にこびを見せ寄りそうこと。ま
た、やたらにそのような態度をとる者。洒落本「擲
錢青楼占「坤為地」此卦のおどりこはとんでもないじ
なつきなり」
じなつき「自カ四」人にこびを見せ寄りつく。情
事をしかける。・浮世草子「三千世界色修行」一「二
ゆきくる人もしなつきとてこそ立とまり、つれ道中の
やなぎ生し、見る人しなつきかぬはなく」・浄瑠璃「嫩
葉相生源氏」五「こいつ氣違に極(きま)まった。な
つかしの我夫やとおれをたらへてはなつき二、うた
ニ、わたしやあなたを退(の)けて、外に人を可愛がる
心は、微塵もござりませぬけれど、けれとなら、なん
であの様にじなつきぞ」・浄瑠璃「伊賀越道中双六
六」略「わしや此方(こちら)に惚れたわいの」とし
なつきかければついで退(の)き」
しなつづ「品付」名「品物を書きしるすこと。また、
そのもの。品書き。(閉園)余(余)

らしいに同じ。浮世草子「色道大鼓」二「二十四
秋よりこにこつとめて、ぼつとりとしてしなつこく、
傍響にかはゆがられ」(閉園)①やわらかい。新潟県中
頸城郡47(しなこい)京都65、奈良県南葛城郡61②
弾力性がある。柔軟である。(しなこい)大阪63③歯
切れが悪くかみきれない。(しなこい)この肉はし
なこいのでかみきれぬ和歌山市67
しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」
しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」
しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」

しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」
しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」

しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」
しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」

しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」
しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」

しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」
しなつこい「形口」名「しなつこい」(形口)「しな
つこい」に同じ。・浄瑠璃「蘆屋道満大内鑑」四
「今迄の母様(かかさま)の様に、母様母様としなつこ
しう頼むぞや」

「級照(しなてる) 片足羽河(かたしはがは)のさ丹
塗りの大橋の上ゆへ虫麻呂歌集」 〔開園〕シナナタル
(級立の約(大言海))

「しなてる」が問助詞「や」を伴って
五音化したもの。「かた片」にかかる。「拾遺」
傷・一三五〇)「しなてるや片岡山に飯いひ」に創あて
伏せる旅人あはれ親なし皇徳太子」(2)「鳩(に
お)の湖(みずうみ)にかかる。かかり方未詳。源
氏早殿」しなてるや鳩(にほ)のみづうみに漕ぐ舟の
まはならねど違ひ見しものを」 〔開園〕にはの海
は琵琶湖のことであり、「万葉集」一・三三三三の
「しなて」に続く「筑摩(つくま)が近江国琵琶湖沿
岸の地であるところから、関係があるのではないか
ともいわれる。

「しな」と「科戸」(「しなど」とも。「しは風の意、
「しな」は連体格を示す助詞で「の」の意、「しは場所の
意)風の起る所。書紀(神代上)に見える風神に級
長戸刃命しなとへのみこと)の名がある。堤中納
言(よ)のな)と出で立つ所は、しなのとはらの上
(かみ)かした、天の川のほとり近く、鶴(かささぎ)
の橋づめに待り。二十五絃(海田)草(雷)神の歌「科
戸の国を駆けいづる強弓取(つよゆみとり)の大風
は」

しなのの風(かぜ) 風の異称。特に、いっさいの
罪やけがれを吹き払う風の意に用いられる。*延
喜式祝詞六月晦大赦天の下四方(よも)の国に
は、罪といふ罪はあらじと、科戸(科)の風(かぜ)の
かぜ)の天の八重雲を吹き放つ事の如く。*源氏朝
顔(あな心憂。その世のつみは、みな、しなのの風
にたぐへてきとのたまふ愛敬も、こよなし)。御伽
草子(福富草紙)不思議や、いかうくさき、もしし
などの風や吹きつらんと思へば、いぶせきにはひ
ぞや。*書言字考節用集(二)不周風(シナト)ノカセ
〔文選註〕西北風為不周風(冬時也。科戸風)同神
書。*談義本根無草(前二)「さしも多かりし馴染
(なじみ)の客も、科戸(シナド)の風の、天の八重雲
を吹きはなつことごとく略(く)こととふ者もあら
ざれば。*雑俳柳多留(一八)「しなのの風にさそは
れて御用ぬけ」 〔開園〕

しなと(二)名) 焼畑の作物を収納した跡。宮崎県の
山村でいう。

しなとへ(級長戸刃) 「しなとへ」の「しなとへ」は「級長戸刃命」
に同じ。良寛歌(日本古典全書所収)「下枝(しづ)え
はもいらかにかかりひさかたの雲はおけどもし
なとへゆ風は吹けども」
しなとへの「みこと」級長戸刃命(「へ」は「め(女)」、
の変化した)の風の女神。*書紀(神代上)丹鶴本
朱訓「乃ち吹撥(ふきは)はふ氣(いき)神と化ふる。
号を級長戸刃命(シナトヘノミコト)と曰す。亦は級
長津彦(しなつひこ)の命と曰す。是れ風の神なり」

〔開園〕書紀(神代上)の例を古来「級長戸刃(しなと
へ)」と訓んできたものもある(兼方本訓等)が、誤読
である。また、「日本書紀」の編者はしなとへの「みこ
と」のまいたの名を「しなつひこ」のみこととしたが、元
来は「しなとへ」風の女神と「しなつひこ」風の男神
とは男女一対の風の神であったものと考えられる。
〔開園〕

しなとり(品鳥) 美しい鳥。*浄瑠璃・三世二河
白道(五)「五色いろするしな鳥の、ねをあらそひてさ
あつするは、おんがくするかとうたはれ」
しなぬし。ち(信濃道)「しなのじ(信濃路)」に
同じ。*万葉(一四三三九九)「信濃道(シナヌビ)は今
の整道(はりみち)刈りばねに足踏ましむな香履(は)
けわが背(東)歌(信濃)」

しなぬの(科布) 「しなのぬの(信濃布)」に同じ。
*季(夏) 〔開園〕
しなの(信濃) 東山道八か国の一つ。平安時代、勅旨
牧一六が置かれ、各地に荘園が開かれた。中世、これ
らの勅旨牧や荘園から多くの豪族が発生し、戦国時
代には小笠原、村上、諏訪、木曾、上杉、武田の諸氏が
その勢力を争った。江戸時代は小藩が分立。明治四
年(一八七二)の廃藩置縣後に長野・筑摩の二県が置
かれ、同九年統合されて、現在の長野県となる。信
州。科野。*二十巻本和名抄(五)「東山道第五十四
略(信濃)ノ奈乃」。*黒本本用集(東山道八ヶ
略)「信濃ノ信州(シノ)ノ十一郡」。*
〔名〕「しなのぬの(信濃者)の略。*咄本綱の味噌
津土左衛門「信濃者を家来に抱へ略(略)金の工面にゆ
くとて、家来をだまして内を出ける。家来の信濃(シ
ナ)ノまことと思ひ」 〔開園〕(1)シノノキ(科木)を名産
とするところから(日本書紀通証・古事記伝・和訓
栞)。②シノノ(信濃)の転(名語記)。③級(シ)な坂
の多い国であるところから(冠辞考)。科野の義でシ
ナは坂をいう(名言通)。④(科)しなののつく地名が
多いところから(大日本地名辞書(吉田東伍))。〔開園〕
〔開園〕(2) 倉之。〔開園〕(3) 倉之。〔開園〕(4) 倉之。〔開園〕(5) 倉之。〔開園〕(6) 倉之。〔開園〕(7) 倉之。〔開園〕(8) 倉之。〔開園〕(9) 倉之。〔開園〕(10) 倉之。〔開園〕(11) 倉之。〔開園〕(12) 倉之。〔開園〕(13) 倉之。〔開園〕(14) 倉之。〔開園〕(15) 倉之。〔開園〕(16) 倉之。〔開園〕(17) 倉之。〔開園〕(18) 倉之。〔開園〕(19) 倉之。〔開園〕(20) 倉之。〔開園〕(21) 倉之。〔開園〕(22) 倉之。〔開園〕(23) 倉之。〔開園〕(24) 倉之。〔開園〕(25) 倉之。〔開園〕(26) 倉之。〔開園〕(27) 倉之。〔開園〕(28) 倉之。〔開園〕(29) 倉之。〔開園〕(30) 倉之。〔開園〕(31) 倉之。〔開園〕(32) 倉之。〔開園〕(33) 倉之。〔開園〕(34) 倉之。〔開園〕(35) 倉之。〔開園〕(36) 倉之。〔開園〕(37) 倉之。〔開園〕(38) 倉之。〔開園〕(39) 倉之。〔開園〕(40) 倉之。〔開園〕(41) 倉之。〔開園〕(42) 倉之。〔開園〕(43) 倉之。〔開園〕(44) 倉之。〔開園〕(45) 倉之。〔開園〕(46) 倉之。〔開園〕(47) 倉之。〔開園〕(48) 倉之。〔開園〕(49) 倉之。〔開園〕(50) 倉之。〔開園〕(51) 倉之。〔開園〕(52) 倉之。〔開園〕(53) 倉之。〔開園〕(54) 倉之。〔開園〕(55) 倉之。〔開園〕(56) 倉之。〔開園〕(57) 倉之。〔開園〕(58) 倉之。〔開園〕(59) 倉之。〔開園〕(60) 倉之。〔開園〕(61) 倉之。〔開園〕(62) 倉之。〔開園〕(63) 倉之。〔開園〕(64) 倉之。〔開園〕(65) 倉之。〔開園〕(66) 倉之。〔開園〕(67) 倉之。〔開園〕(68) 倉之。〔開園〕(69) 倉之。〔開園〕(70) 倉之。〔開園〕(71) 倉之。〔開園〕(72) 倉之。〔開園〕(73) 倉之。〔開園〕(74) 倉之。〔開園〕(75) 倉之。〔開園〕(76) 倉之。〔開園〕(77) 倉之。〔開園〕(78) 倉之。〔開園〕(79) 倉之。〔開園〕(80) 倉之。〔開園〕(81) 倉之。〔開園〕(82) 倉之。〔開園〕(83) 倉之。〔開園〕(84) 倉之。〔開園〕(85) 倉之。〔開園〕(86) 倉之。〔開園〕(87) 倉之。〔開園〕(88) 倉之。〔開園〕(89) 倉之。〔開園〕(90) 倉之。〔開園〕(91) 倉之。〔開園〕(92) 倉之。〔開園〕(93) 倉之。〔開園〕(94) 倉之。〔開園〕(95) 倉之。〔開園〕(96) 倉之。〔開園〕(97) 倉之。〔開園〕(98) 倉之。〔開園〕(99) 倉之。〔開園〕(100) 倉之。〔開園〕(101) 倉之。〔開園〕(102) 倉之。〔開園〕(103) 倉之。〔開園〕(104) 倉之。〔開園〕(105) 倉之。〔開園〕(106) 倉之。〔開園〕(107) 倉之。〔開園〕(108) 倉之。〔開園〕(109) 倉之。〔開園〕(110) 倉之。〔開園〕(111) 倉之。〔開園〕(112) 倉之。〔開園〕(113) 倉之。〔開園〕(114) 倉之。〔開園〕(115) 倉之。〔開園〕(116) 倉之。〔開園〕(117) 倉之。〔開園〕(118) 倉之。〔開園〕(119) 倉之。〔開園〕(120) 倉之。〔開園〕(121) 倉之。〔開園〕(122) 倉之。〔開園〕(123) 倉之。〔開園〕(124) 倉之。〔開園〕(125) 倉之。〔開園〕(126) 倉之。〔開園〕(127) 倉之。〔開園〕(128) 倉之。〔開園〕(129) 倉之。〔開園〕(130) 倉之。〔開園〕(131) 倉之。〔開園〕(132) 倉之。〔開園〕(133) 倉之。〔開園〕(134) 倉之。〔開園〕(135) 倉之。〔開園〕(136) 倉之。〔開園〕(137) 倉之。〔開園〕(138) 倉之。〔開園〕(139) 倉之。〔開園〕(140) 倉之。〔開園〕(141) 倉之。〔開園〕(142) 倉之。〔開園〕(143) 倉之。〔開園〕(144) 倉之。〔開園〕(145) 倉之。〔開園〕(146) 倉之。〔開園〕(147) 倉之。〔開園〕(148) 倉之。〔開園〕(149) 倉之。〔開園〕(150) 倉之。〔開園〕(151) 倉之。〔開園〕(152) 倉之。〔開園〕(153) 倉之。〔開園〕(154) 倉之。〔開園〕(155) 倉之。〔開園〕(156) 倉之。〔開園〕(157) 倉之。〔開園〕(158) 倉之。〔開園〕(159) 倉之。〔開園〕(160) 倉之。〔開園〕(161) 倉之。〔開園〕(162) 倉之。〔開園〕(163) 倉之。〔開園〕(164) 倉之。〔開園〕(165) 倉之。〔開園〕(166) 倉之。〔開園〕(167) 倉之。〔開園〕(168) 倉之。〔開園〕(169) 倉之。〔開園〕(170) 倉之。〔開園〕(171) 倉之。〔開園〕(172) 倉之。〔開園〕(173) 倉之。〔開園〕(174) 倉之。〔開園〕(175) 倉之。〔開園〕(176) 倉之。〔開園〕(177) 倉之。〔開園〕(178) 倉之。〔開園〕(179) 倉之。〔開園〕(180) 倉之。〔開園〕(181) 倉之。〔開園〕(182) 倉之。〔開園〕(183) 倉之。〔開園〕(184) 倉之。〔開園〕(185) 倉之。〔開園〕(186) 倉之。〔開園〕(187) 倉之。〔開園〕(188) 倉之。〔開園〕(189) 倉之。〔開園〕(190) 倉之。〔開園〕(191) 倉之。〔開園〕(192) 倉之。〔開園〕(193) 倉之。〔開園〕(194) 倉之。〔開園〕(195) 倉之。〔開園〕(196) 倉之。〔開園〕(197) 倉之。〔開園〕(198) 倉之。〔開園〕(199) 倉之。〔開園〕(200) 倉之。〔開園〕(201) 倉之。〔開園〕(202) 倉之。〔開園〕(203) 倉之。〔開園〕(204) 倉之。〔開園〕(205) 倉之。〔開園〕(206) 倉之。〔開園〕(207) 倉之。〔開園〕(208) 倉之。〔開園〕(209) 倉之。〔開園〕(210) 倉之。〔開園〕(211) 倉之。〔開園〕(212) 倉之。〔開園〕(213) 倉之。〔開園〕(214) 倉之。〔開園〕(215) 倉之。〔開園〕(216) 倉之。〔開園〕(217) 倉之。〔開園〕(218) 倉之。〔開園〕(219) 倉之。〔開園〕(220) 倉之。〔開園〕(221) 倉之。〔開園〕(222) 倉之。〔開園〕(223) 倉之。〔開園〕(224) 倉之。〔開園〕(225) 倉之。〔開園〕(226) 倉之。〔開園〕(227) 倉之。〔開園〕(228) 倉之。〔開園〕(229) 倉之。〔開園〕(230) 倉之。〔開園〕(231) 倉之。〔開園〕(232) 倉之。〔開園〕(233) 倉之。〔開園〕(234) 倉之。〔開園〕(235) 倉之。〔開園〕(236) 倉之。〔開園〕(237) 倉之。〔開園〕(238) 倉之。〔開園〕(239) 倉之。〔開園〕(240) 倉之。〔開園〕(241) 倉之。〔開園〕(242) 倉之。〔開園〕(243) 倉之。〔開園〕(244) 倉之。〔開園〕(245) 倉之。〔開園〕(246) 倉之。〔開園〕(247) 倉之。〔開園〕(248) 倉之。〔開園〕(249) 倉之。〔開園〕(250) 倉之。〔開園〕(251) 倉之。〔開園〕(252) 倉之。〔開園〕(253) 倉之。〔開園〕(254) 倉之。〔開園〕(255) 倉之。〔開園〕(256) 倉之。〔開園〕(257) 倉之。〔開園〕(258) 倉之。〔開園〕(259) 倉之。〔開園〕(260) 倉之。〔開園〕(261) 倉之。〔開園〕(262) 倉之。〔開園〕(263) 倉之。〔開園〕(264) 倉之。〔開園〕(265) 倉之。〔開園〕(266) 倉之。〔開園〕(267) 倉之。〔開園〕(268) 倉之。〔開園〕(269) 倉之。〔開園〕(270) 倉之。〔開園〕(271) 倉之。〔開園〕(272) 倉之。〔開園〕(273) 倉之。〔開園〕(274) 倉之。〔開園〕(275) 倉之。〔開園〕(276) 倉之。〔開園〕(277) 倉之。〔開園〕(278) 倉之。〔開園〕(279) 倉之。〔開園〕(280) 倉之。〔開園〕(281) 倉之。〔開園〕(282) 倉之。〔開園〕(283) 倉之。〔開園〕(284) 倉之。〔開園〕(285) 倉之。〔開園〕(286) 倉之。〔開園〕(287) 倉之。〔開園〕(288) 倉之。〔開園〕(289) 倉之。〔開園〕(290) 倉之。〔開園〕(291) 倉之。〔開園〕(292) 倉之。〔開園〕(293) 倉之。〔開園〕(294) 倉之。〔開園〕(295) 倉之。〔開園〕(296) 倉之。〔開園〕(297) 倉之。〔開園〕(298) 倉之。〔開園〕(299) 倉之。〔開園〕(300) 倉之。〔開園〕(301) 倉之。〔開園〕(302) 倉之。〔開園〕(303) 倉之。〔開園〕(304) 倉之。〔開園〕(305) 倉之。〔開園〕(306) 倉之。〔開園〕(307) 倉之。〔開園〕(308) 倉之。〔開園〕(309) 倉之。〔開園〕(310) 倉之。〔開園〕(311) 倉之。〔開園〕(312) 倉之。〔開園〕(313) 倉之。〔開園〕(314) 倉之。〔開園〕(315) 倉之。〔開園〕(316) 倉之。〔開園〕(317) 倉之。〔開園〕(318) 倉之。〔開園〕(319) 倉之。〔開園〕(320) 倉之。〔開園〕(321) 倉之。〔開園〕(322) 倉之。〔開園〕(323) 倉之。〔開園〕(324) 倉之。〔開園〕(325) 倉之。〔開園〕(326) 倉之。〔開園〕(327) 倉之。〔開園〕(328) 倉之。〔開園〕(329) 倉之。〔開園〕(330) 倉之。〔開園〕(331) 倉之。〔開園〕(332) 倉之。〔開園〕(333) 倉之。〔開園〕(334) 倉之。〔開園〕(335) 倉之。〔開園〕(336) 倉之。〔開園〕(337) 倉之。〔開園〕(338) 倉之。〔開園〕(339) 倉之。〔開園〕(340) 倉之。〔開園〕(341) 倉之。〔開園〕(342) 倉之。〔開園〕(343) 倉之。〔開園〕(344) 倉之。〔開園〕(345) 倉之。〔開園〕(346) 倉之。〔開園〕(347) 倉之。〔開園〕(348) 倉之。〔開園〕(349) 倉之。〔開園〕(350) 倉之。〔開園〕(351) 倉之。〔開園〕(352) 倉之。〔開園〕(353) 倉之。〔開園〕(354) 倉之。〔開園〕(355) 倉之。〔開園〕(356) 倉之。〔開園〕(357) 倉之。〔開園〕(358) 倉之。〔開園〕(359) 倉之。〔開園〕(360) 倉之。〔開園〕(361) 倉之。〔開園〕(362) 倉之。〔開園〕(363) 倉之。〔開園〕(364) 倉之。〔開園〕(365) 倉之。〔開園〕(366) 倉之。〔開園〕(367) 倉之。〔開園〕(368) 倉之。〔開園〕(369) 倉之。〔開園〕(370) 倉之。〔開園〕(371) 倉之。〔開園〕(372) 倉之。〔開園〕(373) 倉之。〔開園〕(374) 倉之。〔開園〕(375) 倉之。〔開園〕(376) 倉之。〔開園〕(377) 倉之。〔開園〕(378) 倉之。〔開園〕(379) 倉之。〔開園〕(380) 倉之。〔開園〕(381) 倉之。〔開園〕(382) 倉之。〔開園〕(383) 倉之。〔開園〕(384) 倉之。〔開園〕(385) 倉之。〔開園〕(386) 倉之。〔開園〕(387) 倉之。〔開園〕(388) 倉之。〔開園〕(389) 倉之。〔開園〕(390) 倉之。〔開園〕(391) 倉之。〔開園〕(392) 倉之。〔開園〕(393) 倉之。〔開園〕(394) 倉之。〔開園〕(395) 倉之。〔開園〕(396) 倉之。〔開園〕(397) 倉之。〔開園〕(398) 倉之。〔開園〕(399) 倉之。〔開園〕(400) 倉之。〔開園〕(401) 倉之。〔開園〕(402) 倉之。〔開園〕(403) 倉之。〔開園〕(404) 倉之。〔開園〕(405) 倉之。〔開園〕(406) 倉之。〔開園〕(407) 倉之。〔開園〕(408) 倉之。〔開園〕(409) 倉之。〔開園〕(410) 倉之。〔開園〕(411) 倉之。〔開園〕(412) 倉之。〔開園〕(413) 倉之。〔開園〕(414) 倉之。〔開園〕(415) 倉之。〔開園〕(416) 倉之。〔開園〕(417) 倉之。〔開園〕(418) 倉之。〔開園〕(419) 倉之。〔開園〕(420) 倉之。〔開園〕(421) 倉之。〔開園〕(422) 倉之。〔開園〕(423) 倉之。〔開園〕(424) 倉之。〔開園〕(425) 倉之。〔開園〕(426) 倉之。〔開園〕(427) 倉之。〔開園〕(428) 倉之。〔開園〕(429) 倉之。〔開園〕(430) 倉之。〔開園〕(431) 倉之。〔開園〕(432) 倉之。〔開園〕(433) 倉之。〔開園〕(434) 倉之。〔開園〕(435) 倉之。〔開園〕(436) 倉之。〔開園〕(437) 倉之。〔開園〕(438) 倉之。〔開園〕(439) 倉之。〔開園〕(440) 倉之。〔開園〕(441) 倉之。〔開園〕(442) 倉之。〔開園〕(443) 倉之。〔開園〕(444) 倉之。〔開園〕(445) 倉之。〔開園〕(446) 倉之。〔開園〕(447) 倉之。〔開園〕(448) 倉之。〔開園〕(449) 倉之。〔開園〕(450) 倉之。〔開園〕(451) 倉之。〔開園〕(452) 倉之。〔開園〕(453) 倉之。〔開園〕(454) 倉之。〔開園〕(455) 倉之。〔開園〕(456) 倉之。〔開園〕(457) 倉之。〔開園〕(458) 倉之。〔開園〕(459) 倉之。〔開園〕(460) 倉之。〔開園〕(461) 倉之。〔開園〕(462) 倉之。〔開園〕(463) 倉之。〔開園〕(464) 倉之。〔開園〕(465) 倉之。〔開園〕(466) 倉之。〔開園〕(467) 倉之。〔開園〕(468) 倉之。〔開園〕(469) 倉之。〔開園〕(470) 倉之。〔開園〕(471) 倉之。〔開園〕(472) 倉之。〔開園〕(473) 倉之。〔開園〕(474) 倉之。〔開園〕(475) 倉之。〔開園〕(476) 倉之。〔開園〕(477) 倉之。〔開園〕(478) 倉之。〔開園〕(479) 倉之。〔開園〕(480) 倉之。〔開園〕(481) 倉之。〔開園〕(482) 倉之。〔開園〕(483) 倉之。〔開園〕(484) 倉之。〔開園〕(485) 倉之。〔開園〕(486) 倉之。〔開園〕(487) 倉之。〔開園〕(488) 倉之。〔開園〕(489) 倉之。〔開園〕(490) 倉之。〔開園〕(491) 倉之。〔開園〕(492) 倉之。〔開園〕(493) 倉之。〔開園〕(494) 倉之。〔開園〕(495) 倉之。〔開園〕(496) 倉之。〔開園〕(497) 倉之。〔開園〕(498) 倉之。〔開園〕(499) 倉之。〔開園〕(500) 倉之。〔開園〕(501) 倉之。〔開園〕(502) 倉之。〔開園〕(503) 倉之。〔開園〕(504) 倉之。〔開園〕(505) 倉之。〔開園〕(506) 倉之。〔開園〕(507) 倉之。〔開園〕(508) 倉之。〔開園〕(509) 倉之。〔開園〕(510) 倉之。〔開園〕(511) 倉之。〔開園〕(512) 倉之。〔開園〕(513) 倉之。〔開園〕(514) 倉之。〔開園〕(515) 倉之。〔開園〕(516) 倉之。〔開園〕(517) 倉之。〔開園〕(518) 倉之。〔開園〕(519) 倉之。〔開園〕(520) 倉之。〔開園〕(521) 倉之。〔開園〕(522) 倉之。〔開園〕(523) 倉之。〔開園〕(524) 倉之。〔開園〕(525) 倉之。〔開園〕(526) 倉之。〔開園〕(527) 倉之。〔開園〕(528) 倉之。〔開園〕(529) 倉之。〔開園〕(530) 倉之。〔開園〕(531) 倉之。〔開園〕(532) 倉之。〔開園〕(533) 倉之。〔開園〕(534) 倉之。〔開園〕(535) 倉之。〔開園〕(536) 倉之。〔開園〕(537) 倉之。〔開園〕(538) 倉之。〔開園〕(539) 倉之。〔開園〕(540) 倉之。〔開園〕(541) 倉之。〔開園〕(542) 倉之。〔開園〕(543) 倉之。〔開園〕(544) 倉之。〔開園〕(545) 倉之。〔開園〕(546) 倉之。〔開園〕(547) 倉之。〔開園〕(548) 倉之。〔開園〕(549) 倉之。〔開園〕(550) 倉之。〔開園〕(551) 倉之。〔開園〕(552) 倉之。〔開園〕(553) 倉之。〔開園〕(554) 倉之。〔開園〕(555) 倉之。〔開園〕(556) 倉之。〔開園〕(557) 倉之。〔開園〕(558) 倉之。〔開園〕(559) 倉之。〔開園〕(560) 倉之。〔開園〕(561) 倉之。〔開園〕(562) 倉之。〔開園〕(563) 倉之。〔開園〕(564) 倉之。〔開園〕(565) 倉之。〔開園〕(566) 倉之。〔開園〕(567) 倉之。〔開園〕(568) 倉之。〔開園〕(569) 倉之。〔開園〕(570) 倉之。〔開園〕(571) 倉之。〔開園〕(572) 倉之。〔開園〕(573) 倉之。〔開園〕(574) 倉之。〔開園〕(575) 倉之。〔開園〕(576) 倉之。〔開園〕(577) 倉之。〔開園〕(578) 倉之。〔開園〕(579) 倉之。〔開園〕(580) 倉之。〔開園〕(581) 倉之。〔開園〕(582) 倉之。〔開園〕(583) 倉之。〔開園〕(584) 倉之。〔開園〕(585) 倉之。〔開園〕(586) 倉之。〔開園〕(587) 倉之。〔開園〕(588) 倉之。〔開園〕(589) 倉之。〔開園〕(590) 倉之。〔開園〕(591) 倉之。〔開園〕(592) 倉之。〔開園〕(593) 倉之。〔開園〕(594) 倉之。〔開園〕(595) 倉之。〔開園〕(596) 倉之。〔開園〕(597) 倉之。〔開園〕(598) 倉之。〔開園〕(599) 倉之。〔開園〕(600) 倉之。〔開園〕(601) 倉之。〔開園〕(602) 倉之。〔開園〕(603) 倉之。〔開園〕(604) 倉之。〔開園〕(605) 倉之。〔開園〕(606) 倉之。〔開園〕(607) 倉之。〔開園〕(608) 倉之。〔開園〕(609) 倉之。〔開園〕(610) 倉之。〔開園〕(611) 倉之。〔開園〕(612) 倉之。〔開園〕(613) 倉之。〔開園〕(614) 倉之。〔開園〕(615) 倉之。〔開園〕(616) 倉之。〔開園〕(617) 倉之。〔開園〕(618) 倉之。〔開園〕(619) 倉之。〔開園〕(620) 倉之。〔開園〕(621) 倉之。〔開園〕(622) 倉之。〔開園〕(623) 倉之。〔開園〕(624) 倉之。〔開園〕(625) 倉之。〔開園〕(626) 倉之。〔開園〕(627) 倉之。〔開園〕(628) 倉之。〔開園〕(629) 倉之。〔開園〕(630) 倉之。〔開園〕(631) 倉之。〔開園〕(632) 倉之。〔開園〕(633) 倉之。〔開園〕(634) 倉之。〔開園〕(635) 倉之。〔開園〕(636) 倉之。〔開園〕(637) 倉之。〔開園〕(638) 倉之。〔開園〕(639) 倉之。〔開園〕(640) 倉之。〔開園〕(641) 倉之。〔開園〕(642) 倉之。〔開園〕(643) 倉之。〔開園〕(644) 倉之。〔開園〕(645) 倉之。〔開園〕(646) 倉之。〔開園〕(647) 倉之。〔開園〕(648) 倉之。〔開園〕(649) 倉之。〔開園〕(650) 倉之。〔開園〕(651) 倉之。〔開園〕(652) 倉之。〔開園〕(653) 倉之。〔開園〕(654) 倉之。〔開園〕(655) 倉之。〔開園〕(656) 倉之。〔開園〕(657) 倉之。〔開園〕(658) 倉之。〔開園〕(659) 倉之。〔開園〕(660) 倉之。〔開園〕(661) 倉之。〔開園〕(662) 倉之。〔開園〕(663) 倉之。〔開園〕(664) 倉之。〔開園〕(665) 倉之。〔開園〕(666) 倉之。〔開園〕(667) 倉之。〔開園〕(668) 倉之。〔開園〕(669) 倉之。〔開園〕(670) 倉之。〔開園〕(671) 倉之。〔開園〕(672) 倉之。〔開園〕(673) 倉之。〔開園〕(674) 倉之。〔開園〕(675) 倉之。〔開園〕(676) 倉之。〔開園〕(677) 倉之。〔開園〕(678) 倉之。〔開園〕(679) 倉之。〔開園〕(680) 倉之。〔開園〕(681) 倉之。〔開園〕(682) 倉之。〔開園〕(683) 倉之。〔開園〕(684) 倉之。〔開園〕(685) 倉之。〔開園〕(686) 倉之。〔開園〕(687) 倉之。〔開園〕(688) 倉之。〔開園〕(689) 倉之。〔開園〕(690) 倉之。〔開園〕(691) 倉之。〔開園〕(692) 倉之。〔開園〕(693) 倉之。〔開園〕(694) 倉之。〔開園〕(695) 倉之。〔開園〕(696) 倉之。〔開園〕(697) 倉之。〔開園〕(698) 倉之。〔開園〕(699) 倉之。〔開園〕(700) 倉之。〔開園〕(701) 倉之。〔開園〕(702) 倉之。〔開園〕(703) 倉之。〔開園〕(704) 倉之。〔開園〕(705) 倉之。〔開園〕(706) 倉之。〔開園〕(707) 倉之。〔開園〕(708) 倉之。〔開園〕(709) 倉之。〔開園〕(710) 倉之。〔開園〕(711) 倉之。〔開園〕(712) 倉之。〔開園〕(713) 倉之。〔開園〕(714) 倉之。〔開園〕(715) 倉之。〔開園〕(716) 倉之。〔開園〕(717) 倉之。〔開園〕(718) 倉之。〔開園〕(719) 倉之。〔開園〕(720) 倉之。〔開園〕(721) 倉之。〔開園〕(722) 倉之。〔開園〕(723) 倉之。〔開園〕(724) 倉之。〔開園〕(725) 倉之。〔開園〕(726) 倉之。〔開園〕(727) 倉之。〔開園〕(728) 倉之。〔開園〕(729) 倉之。〔開園〕(730) 倉之。〔開園〕(731) 倉之。〔開園〕(732) 倉之。〔開園〕(733) 倉之。〔開園〕(734) 倉之。〔開園〕(735) 倉之。〔開園〕(736) 倉之。〔開園〕(737) 倉之。〔開園〕(738) 倉之。〔開園〕(739) 倉之。〔開園〕(740) 倉之。〔開園〕(741) 倉之。〔開園〕(742) 倉之。〔開園〕(743) 倉之。〔開園〕(744) 倉之。〔開園〕(745) 倉之。〔開園〕(746) 倉之。〔開園〕(747) 倉之。〔開園〕(748) 倉之。〔開園〕(749) 倉之。〔開園〕(750) 倉之。〔開園〕(751) 倉之。〔開園〕(752) 倉之。〔開園〕(753) 倉之。〔開園〕(754) 倉之。〔開園〕(755) 倉之。〔開園〕(756) 倉之。〔開園〕(757) 倉之。〔開園〕(758) 倉之。〔開園〕(759) 倉之。〔開園〕(760) 倉之。〔開園〕(761) 倉之。〔開園〕(762) 倉之。〔開園〕(763) 倉之。〔開園〕(764) 倉之。〔開園〕(765) 倉之。〔開園〕(766) 倉之。〔開園〕(767) 倉之。〔開園〕(768) 倉之。〔開園〕(769) 倉之。〔開園〕(770) 倉之。〔開園〕(771) 倉之。〔開園〕(772) 倉之。〔開園〕(773) 倉之。〔開園〕(774) 倉之。〔開園〕(775) 倉之。〔開園〕(776) 倉之。〔開園〕(777) 倉之。〔開園〕(778) 倉之。〔開園〕(779) 倉之。〔開園〕(780) 倉之。〔開園〕(781) 倉之。〔開園〕(782) 倉之。〔開園〕(783) 倉之。〔開園〕(784) 倉之。〔開園〕(785) 倉之。〔開園〕(786) 倉之。〔開園〕(787) 倉之。〔開園〕(788) 倉之。〔開園〕(789) 倉之。〔開園〕(790) 倉之。〔開園〕(791) 倉之。〔開園〕(792) 倉之。〔開園〕(793) 倉之。〔開園〕(794) 倉之。〔開園〕(795) 倉之。〔開園〕(796) 倉之。〔開園〕(797) 倉之。〔開園〕(798) 倉之。〔開園〕(799) 倉之。〔開園〕(800) 倉之。〔開

